

ふちゅう東西南北

第 49 号

生涯学習だより



おおにぎわいだった 市制施行 60 周年記念 第 21 回 生涯学習フェスティバル

市民のみなさんの日頃の学習成果を発表する生涯学習フェスティバルが、9月6日(土)・7日(日)、生涯学習センターで開催されました。2日間で延べ1万人をこえる参加者があり、子どもから大人まで家族みんなで楽しみました。

このフェスティバルは、主催：府中市、共催：ふちゅう生涯学習センター共同事業体、企画運営：フェスティバル実行委員会で、市民のみなさんの発表は公募によるという、みんなが協働してつくる手づくりのイベントです。

実行委員会では、公募イベント(市民作品展、市民発表会、ワークショップ、サウンド・フェスティバル)に加えて、「子どもサイエンス」、「鉄道模型」、「クイズラリー」な

どのさまざまな子ども向けイベントを企画しました。多くの子どもの出演・出展がありました。アトリウムのモニュメントは「私たちのキラキラ」、若松小4年生の皆さんの作品です。たくさんの子どものご両親や祖父母と一緒にイベントに参加して、生涯学習センターが近來にない賑わいをみせました。

市、生涯学習センター指定管理者、そして市民参加団体、ボランティアが、「みんなでつくろう!ひろがる出会いと学びの輪」のもとに力を合わせたフェスティバルでした。

フェスティバルでのイベント

- ・特別講演会 「江戸の知恵と心を語る」 竹内誠氏 (江戸東京博物館長)
- ・市民作品展 (絵画、工作など 400 作品)
- ・市民発表会 (ダンス、演奏など 20 団体)
- ・ワークショップ(体験教室、16 団体)
- ・サウンドフェスティバル(12 団体)

実行委員会企画イベント

- ・子どもサイエンス ・チャリティーバザー/図書リサイクル ・紙コップタワー選手権 ・クイズラリー ・鉄道模型(Nゲージ) ・お片づけ相談会 ・東京外語大学生企画 ・軽食販売(ギャロップ)

その他のイベント

- ・おはなし会 ・新体力測定 ・太陽観望会(ペガサス2) ・起震車体験
- ・FC東京サッカー/フットサルクリニック ・はじめての方向けタブレット体験会(NTT) ・軽食販売(ミネルヴァ)



生涯学習センター玄関前広場



市民作品展(書道)



アトリウムでの市民発表会の観客



市民発表会(右側が若松小生徒の作品)



子どもサイエンス(科学おもちゃ工作)



ワークショップ(体験教室)



鉄道模型(Nゲージ)

***** <<自主グループ紹介>> *****

☆ ドリーム新体操クラブ ☆

20年前に府中市での活動が始まりました。幼児から小学生までを対象としたクラブです。明るく元気に身体を動かし、表現することの喜び・楽しさを大切に、よりしなやかで美しい身体づくりを目指しています。

新体操は、クラシックバレエの優雅な美しさと、アクロバティックで柔軟性の高い動きや軽快なステップや大きなジャンプとを組み合わせ、リボンやボール、フープ、クラブ、ロープを巧みに操り、高く投げ上げて複雑なポジションでキャッチしたりといった、繊細で躍動美溢れるスポーツです。

一見すると難しいスポーツに感じられるかも知れませんが、手具を用いて楽しく美しく踊ることの喜びは格別です。競技以外では、バルーンや軽い布（ゴー



生涯学習フェスティバルでの発表

ス)、ステッキやハットといった様々な道具を使って演技します。基礎から丁寧に指導を行っていますので、ぜひ皆様一緒に新体操を始めませんか。ご参加をお待ちしています。

一年間の活動としては、年度末に行う「春のおさらい会」（生涯学習センター）の他に、市民スポーツレクリエーションフェスティバル開会式での演技発表があり、そしてこの度は生涯学習フェスティバルへの初参加を果たしました。

エントランスロビーの開放的な空間と照明と音響設備、客席までが用意され、まるで舞台空間と化した場での演技発表は、日ごろ体育館をメインに活動している私たちにとって、お客様との一体感が得られ、とても新鮮で心ときめく体験となりました。このようなイベントに参加できたことへの深い感謝と合わせて、早くも皆んな、来年の発表が待ちどおしく、楽しみにしています。

活動日：月曜日 3回（第1月曜は休館日）

時間：3:45～4:45 幼児～小学2年生
4:45～5:45 小学3年生～

場所：生涯学習センター体育室

会費：月額 4800円

連絡先：浦野 042-365-6352
桂 090-3149-8047

☆ 府中三絃愛好会 ☆

昭和47年設立以来40年になります。その間、会員も高齢化し、人数も減りつつありますが、仲間を増やす方法を模索しながら、琴や太鼓と演奏を交えることをはじめとして、バイオリンや二胡とも合奏したり、ヒップホップダンスと共演したり、演目も端唄、長唄は無論、歌謡曲、童謡、洋楽と幅を広げています。



生涯学習フェスティバルでの合奏

今年は特に、フロアコンサート、ロードライブに足に向けて、先日の生涯学習センターのフェスティバルに参加させていただきましたが、やっぱり時代は進んでいると身に染みました。でもへこたれてはいません。『ちやれん爺とおてん婆』のやる気魂にまたまた火が

ついて、人生終盤の夢と生きがいで、“行け行けどんどん”勇猛果敢な音楽になりそうです。ぜひ鎮め役の若い方の参加をお待ちしています。未経験OK、楽器なんでもOK、“Welcome!”もちろん中高年も、一人でも、グループでも、三味線中心のビッグバンドを作りましょう。

練習その他詳細は、森れいこ（042-592-5157）へ連絡下さい。

会員を募集しています コラージュを楽しむ会

活動内容：クラフトパンチを使ったカード作りなど

活動日：毎月第3木曜日（ただし10月は23日）

場所：府中市生涯学習センター

時間：9:45～12:00

参加費：通常200円（企画時は別途材料費および講習料がかかります。）

連絡先：松浦みどり 090-6719-8082

「生涯学習」この人に聞く その①

～詩吟を楽しむ会 小林清次郎さん～

今号から「生涯学習この人に聞く」コーナーを開設しました。市内で「生涯学習」に取り組んでいる市民や団体等を訪ね生涯学習についての思いを伺います。第1回は若松町「学びのサロン」で「詩吟を楽しむ会」を指導している小林清次郎さんに伺いました。

詩吟を教えることになったきっかけは

「ある市民講座がきっかけになりました。一般に各種学習の講座は終講と同時に受講者が解散してしまうので、学習の成果が受講者一人だけの財産になってしまいます。せっかく有意義な講座を受けてもその学習成果を実践する場に引き出す人がいなければ宝の持ち腐れになってしまいます。以前私が受講したのは市民活動・地域活動などの推進役を養成するためのファシリテーター講座でした。そこで勇気を出して受講生に自主的な活動継続をと呼びかけたのです。そうしたら、6,7人が賛同してくれました。」

そこで詩吟ということになったのですか

「いや、皆さん行動する意欲はあったものの、当初は誰が先導し何を始めるかはすぐには決まりませんでした。」

確かに。自己啓発のための受講とは言え、一人一人の目標や意識は異なるでしょうから

「集まったメンバーが、それぞれどのような目的で受講したのか、その思いを発表し、その中で誰の計画が一番協力しやすく、実現性が高いかを考えました。そこで、自分の経験を活かせる一例として詩吟のことを話したのです。それなら希望者もいる、みんなで協力もできると素晴らしい環境を整えてくれる方がいて……。」

実際に、始めてみて反応は

「広報や各施設のチラシで宣伝しましたが、事前の問い合わせは数人でした。当日3人も来れば十分と思っていました。ところが12人にもなりびっくりしました。その人達の動機は詩吟を楽しみたいのはもちろんですが、交流仲間を増やしたいとか、尺八の演奏や、剣舞を指導している方は詩吟との共演？の可能性を求めて来てくれました。」

一つの行動が、いろいろな方面に刺激を与えることになりましたね

「私は 仲間をつなぐ・学びをつなぐ・市民の力をつなぐを目標にしています。講座受講後の、あの時の集合から、市民活動推進役になるために、出来ること



は躊躇わずにやってみようと思いました。指導となれば十分な事前学習が必要ですが、実際に自分自身が20年以上経験したことを素直に伝えるだけと腹を括りました。堅苦しい学習ではなく、一緒に自分自身も楽しもうと考えています。また誰でも気軽に覗けるように入会当初3ヶ月は無料体験学習ということにしています。様子を見て納得出来たら継続を考えれば良いのです。」

その活動をきっかけに市民の居場所づくりが拡大出来ると良いですね

「詩吟は伝統文化を学び・腹式呼吸で健康法を学ぶなど多くの効用がありますので楽しみです。しかし、これは一つの契機に過ぎません。小さな一歩から、仲間をつなぎ、市民力を発揮する活動を創出出来ればと思います。」

最後に小林さんにとって生涯学習とは

「今日、退職後の世代は自由時間が増えて心の豊かさや生き甲斐を求めています。何かを契機に市民が街に出て行動すれば地域社会の活性化、高齢者の社会参加、青少年の健全育成など多くの意義をもたらします。生涯学習とは一生を通じて頭を使い続け、身体を動かし続けることだと思います。そして学んだ成果を広く他者に返す、それが市の奨励する学び返しの実践であり学習の意義だと思います。私は市民の向上心に火をつけること、そのための居場所づくりのために市民として何が出来るかを考えて行きたいと思っています。市民は講座を受講したら受講後簡単に解散しないで受講生同士でつながり、学習成果を活かすための何かを始めるべきである、講座主催者は座学満了で終講ではなく受講生が次の段階に出発するところまでを企画責任と考えるべきだと声を大にして叫びたいです。そういう発展性のある企画であれば、どこへでも喜んで馳せ参じたいと思っています。」

有難うございました。今後の活躍を祈ります

※小林さんへの問い合わせは下記宛
co8yacf@kde.biglobe.ne.jp

編集後記： 生涯学習フェスティバルは大盛況のうちに終えることが出来ました。本号から「生涯学習この人に聞く」をとりあげます。ぜひ感想をお寄せください。また、「くらやみまつり」を支える車大工さんの記事もどうぞごらんください。(設楽)

ふちゅう東西南北 伝統を守る車大工

今まで府中の歴史について調べてきましたが、今回は、府中市域で育った産業に焦点を当ててみました。

文献を見ますと、幕末から明治にかけては大國魂神社の参詣で宿場町として栄えた宮町あたりを除いては、府中市域の主な産業は農業でしたが、明治 22 年の町村制の施行後は府中市域においても徐々に商工業を専業とする人が増えてきたようです。当時の主な産業は、染物店・撚糸業・藍玉製造・鍛冶屋・車大工・太鼓製造・提灯製造などの業者の他、醸造業（酒・醤油）や煙火業でした。中でも、醸造業の野口酒造店と日本の花火を海外にまで広めた煙火業の丸玉屋小勝店は、更に事業を拡大し現在に至っています。しかし、私の驚かされたのは、その他の業者のほとんどがすでに廃業している中、当時 3 店しかなかった車大工さんのお一人の方が、今でも、その技術を受け継いで営業されていることでした。そこで、早速 5 月 4 日の大國魂神社の例大祭「暗闇まつり」の日に府中で唯一の車大工の堀江幸一氏を訪ねてお話を聞かせて頂きました。堀江氏は、昭和 21 年 5 月 5 日、まさに府中の暗闇祭りの真っ最中に車大工の堀江時太郎氏（屋号“時車”）に丁稚奉公をするため、仲介人と一緒に多摩から歩いて府中まで来たとのこと。堀江氏と歩いていると、すでに神社前の旧甲州街道には、片町や屋敷分の山車が集まりはじめ、時遅しと合図を待っています。

暗闇祭りでは本来の氏子町である 4 カ町の他に、市内の山車併せて 20 台の山車が参加してきます。

ここに勢ぞろいする山車のほとんどは江戸時代につくられた古いもので、当時養蚕で栄えた砂川などで使われたものを大正時代に買い上げ



堀江幸一氏

たものがほとんどですが、唯一屋敷分の山車だけが府中市内の職人さんだけで作られたもので、その屋敷分の山車の車輪を作られたのが、今回お会いした堀江さんだそうです。堀江さんが丁稚に入って最初の仕事は鉄を曲げるための「ふいご」を吹くことから教えられたようです。車大工は単に木工仕事だけではなく、鍛冶屋の仕事もしなければならず大変な力事で、ふいごを吹きながら居眠

りをしては叱られたそうです。当時は、東京都のゴミ収集車や市場の荷車、府中刑務所の作業車と結構仕事もあり忙しかったのですが、昭和 25 年に朝鮮戦争が勃発し、日本が戦争景気に沸くと、その 5 年ほど前から始めた三輪トラックが市場に出回り始め、それまで厳しかったガソリンの規制もゆるみ、手押し車の需要が大きく減り始めたそうです。

丁度、山車の巡行が始まり、目の前に屋敷分の山車がきましたので、早速堀江さんに解説をいただきながら写真を撮らせてもらいました。前輪の大きさが約 60 cm、後輪が約 100 cm と小回りが利くようにつくられていて、前輪の外枠は 6 つに分かれており



屋敷分の山車の車輪

（楕円形）、そこに 12 枚の槍を指してあります。又、後輪は 8 つ割りで、16 枚の槍が刺さ

れています。材質は樫の木で、車軸の入る胴玉はケヤキが使われています。樫の木は、手入れがされずに自然に放置されて、枝落としなどしていないのが一番良いとのこと。また、車は釘を使わずに、切り込みや凹凸の組みあわせで組み込んであるのだそうです。地面と接する部分には、鉄の板をまいてあります。山車の本体は美好町の河原屋の佐藤氏が造り、車は堀江氏の作ですが、飾りの彫りは八王子の彫り師に依頼したそうです。又、以前「郷土の森博物館」より、依頼を受けて堀江氏が製造した車をご自宅

にあるとのことで、見せて頂きました。私達が子どもの頃によく目にしていた懐かしい大八車で、車軸や車輪の一つ一つに堀江さんの受け継いでこ



大八車（堀江氏作）

れた、車大工としての技を感じる作品でした。是非、皆さんも今度山車を目にしたときは、上だけでなく足元の車輪にも歴史のあることを思って眺めると、また楽しさが倍増です。（記：根岸光紀）

企画・編集：府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
共同発行：府中市文化スポーツ部生涯学習スポーツ課
ふちゅう生涯学習センター共同事業体

〒183-0001 府中市浅間町 1-7 府中市生涯学習センター

TEL：042-336-5700



ともに未来へ
笑顔あふれる
わがまち府中